

令和3年度 清瀬市地域福祉推進協議会 議事要旨

令和3年度 清瀬市地域福祉推進協議会 次第

日時 令和3年11月15日（月）

午後1時30分から

場所 清瀬市役所 研修室1

- 1 開 会
- 2 委嘱状公布
- 3 委員紹介
- 4 配布資料の確認
- 5 会長及び副会長の選出及び就任の挨拶
- 6 目標事業評価の進め方
- 7 議 題
令和2年度 地域福祉計画目標事業評価調書（案）
- 8 その他

議事要旨

開催日時 令和3年11月15日（月）午後1時30分から

開催場所 清瀬市役所 研修室1

【配布資料】

次第	令和3年度 清瀬市地域福祉推進協議会 次第
当日資料1	清瀬市地域福祉推進協議会 委員名簿
当日資料2	清瀬市地域福祉推進協議会運営要綱
当日資料3	清瀬市地域福祉推進協議会傍聴に関する取扱いについて
事前資料1	令和2年度 地域福祉計画 目標事業評価調書（案）
事前資料2	第4次清瀬市地域福祉計画

1 開 会

2 委嘱状公布

3 委員紹介

4 配布資料の確認

5 会長及び副会長の選出及び就任の挨拶

6 目標事業評価の進め方

事務局より、地域福祉計画と他の計画の関係を説明。続いて、目標事業評価調書の進捗状況及び次年度方針の見方を説明。

本日の進め方として、4つの重点項目について報告後、施策の柱ごとに委員の審議・検後、協議会の了承を得ることを説明。当日中に了承が得られぬ場合、事務局が後日意見調整し、会長・副会長の了承を受け決定することを確認。また、本日の議事録は、議事要旨を作成、委員の確認後、委員名を伏せ、市のホームページ上で公開する旨の確認があった。

7 議 題

令和2年度 地域福祉計画目標事業評価調書（案）について
事務局 調書について説明。

- 会 長 社協より専門職アンケート等の活動結果を紹介してほしい。
- 委 員 第4次地域福祉活動計画の策定に入り、その一環で福祉のまちづくりアンケートを実施した。結果、孤立の問題や、複合・多問題世帯への対応の課題、情報の課題、制度や分野などの狭間となる課題などが見えてきた。
- 会 長 市の計画では包括的な支援体制の構築の部分で対応している。実際に支援をしている委員から意見を願いたい。
- 委 員 支援が必要な人と行政サービスをどう繋げばいいか教えてほしい。
- 会 長 社会福祉法上では、各支援関係機関が自機関のみでの解決が難しい場合、支援関係機関に協力を求めるよう努めなければならないとされている。ただし、個人情報取扱いは慎重な注意が必要である。市で議論していることはあるか。
- 事務局 福祉総務課で取扱いの事例は無かったが、近い例はあった。ただ、やはり個人情報の観点から慎重に判断し進める必要がある。
- 会 長 相談支援包括化推進員を置き、その相談員が各所のコーディネートを行う方針を国が示している。清瀬市でも相談支援体制をどう構築するか、対策が必要な部分である。
- 委 員 生きづらさを抱え引きこもりになっている若者等の支援に関わっているが、清瀬市の窓口はどこか。平成31年に「清瀬市自殺対策計画」が策定されているが、清瀬市の自殺者の状況と、コロナ禍の影響を聞きたい。それと関連し、市民向けのゲートキーパーの養成の計画策定後から現在までの進捗を聞きたい。また、新規の各事業を施策に位置付け、入れ込むことを今後お願いしたい。
- 会 長 所管課から各質問に回答願いたい。
- 事務局 まず、引きこもり対応の重層的支援体制整備事業の担当所管は、当市では決まっていないが、断らない相談窓口を設けている。地域福祉計画 23 ページの（2）相談窓口についての部分が該当する。2点目に自殺者は、令和元年度は市内で9名だったが、令和2年度は17名だった。令和3年度は現在7名であり、やや収まりが見えている。次に、ゲートキーパーの進捗状況は、自殺対策計画に記しているが、令和元年度までに市の職員の50%、そして市民150人を目標値とし現在進めている。次に、縦割りの計画は、自殺対策計画や、刑務所から出た人への対応等に対し、現在、再犯防止推進計画等の計画があり、それらは地域共生社会の考え方の一部で各自治体が色々取り組んでいる。当市の場合、地域福祉計画の期間を長く取り、次の改定は令和8年になる。次の機会に地域福祉活動計画と地域福祉計画を一体化させる等、色々な議論を進める必要を感じる。また、各種の個別の計画をそこに含めるか、そこも検討し進めたい。
- 会 長 計画 32 ページの用語解説で地域福祉コーディネーターを説明し、支援が行き届かない人の支援や、地域に関わる専門職、必要な支援に繋ぐとされている。また、自殺者の方々は、地域づくりの会や円卓会議等、何か相談者と接点を作

れる場が大事である。委員に民生委員として意見を聞きたい。

委員 この2年間、コロナ禍で地域の人との距離がとても遠くなった。可能な範囲で活動中だが、早くコロナが改善され我々の通常の活動が出来るようになることを願う。

会長 コロナ禍で訪問が出来ない中、気になる人がいた場合、民生委員が包括に連絡する事もあったのではないか。

委員 電話が鳴る機会は減少したが、名前と住所を書いたチラシをポストに入れてみたら、すぐ電話がかかってきた。お礼や相談の電話もあった。

会長 民生委員だけが全て背負ってしまうのも大変だと思う。包括や関係機関と一緒にアプローチできると良い。

委員 現在、市内の民生委員は欠員が3名いるが、欠員の3名の地域では地域包括が直接電話相談を受けてくれていて感謝している。

委員 私は野塩団地の老人会長兼自治会長である。高齢者に関し、新型コロナウイルス感染症対策のワクチン接種の際、高齢者は事情が分からず大変苦勞した。そこで住民や老人会の人間を何名か集め、お手伝いをした。他にも、私は老人会、自治会の会長の立場として、全て役目を果たさねばならない。それは大変な事だが、対応した方は喜んでくれている。コロナで住民の皆に会えなかったが、最近は徐々に会うよう心掛けている。

会長 情報弱者やデジタル弱者と呼ぶべき人達が出てきている。その方々に向け、老人会や自治会だけでなく、例えば円卓会議や地域づくりの会等が受け止め考えてくれると良い。一部の会長の負担だけ過大になるのは良くない。地域の皆と一緒に考えられる場があると良い。委員の意見を聞きたい。

委員 清瀬市の相談体制や窓口について、縦割りでなく横の繋がりを作りつつ、相談の中心になり調整する役割の人間が真に必要な。加えて、子ども食堂の役割が非常に大きい。ボランティアだけを期待せず、市としてバックアップする必要を感じる。また、学習支援活動も市民に周知し、新たに参画する層の増加を図らねばならない。

会長 地域福祉計画 23 ページ(2)相談窓口についての中にワンストップの窓口設置の記載がある。相談窓口体制は市に考えてほしい。子ども食堂に関し、市の考えやバックアップ体制を聞きたい。

所管課 東京都の補助制度があり、市を通す形で補助している。現在、コロナ禍のため出来ていないことも多いが、続けていくところは、配食サービス等に切り替え支援を続けている。今後は事態を注視し情報を集め対応していきたい。

会長 子ども達への支援は家族支援の管轄だが、スクールソーシャルワーカーや学校、福祉関係者の連携が核になる。教育と福祉の連携の必要性は以前から訴えられていて、既に現場では各種連携があると思うが、改めてそこを大事にしてほしい。委員の意見を聞きたい。

- 委員 情報弱者等に本当に必要な情報が伝わっていない現状を感じる。また、相談体制の件は、自殺の問題にも繋がる。皆の意見を聞きたい。他に、新たなネットワーク作りが必要である。加えて、ネットワークに関連し、防災の問題と併せ、清瀬市が主体的に動き計画策定に盛り込んでほしい。
- 会長 当人が情報を得られるようにするアプローチと、周りから情報を届けるアプローチの両方がある。社協で何か市内で活動しているのか聞きたい。
- 委員 ボランティア市民活動センターでスマホ教室の開催や個別で zoom の使用相談を受けている。
- 会長 情報弱者を機関が集約する仕組みが出来れば良い。これは取組8「地域活動の担い手の発掘・育成」や、または取組9「大学との連携」が関連する。他に、障害者施設の連携に関し市の考えを聞きたい。
- 所管課 当市では地域自立支援協議会が設立され、その中に子ども部会・相談支援部会・権利擁護部会がある。加えて、今年から地域活動支援拠点部会が加わり4部会となった。各部会に各業務の担当者が参加し、地域の課題を話し合う場にもなっている。また、同じ職種の事業者が集まるため、挨拶や相談等の横の連携の場の役割も同時に担っている。
- 会長 支援が必要な人や孤立している人が行政と社協のサポートを受けつつ取組31に記載のある機関と結びつけるよう、地域の人と取り組めると良い。更にはそこに施設が関わると尚良い。委員に意見を聞きたい。
- 委員 急がず慎重に連携を進めたい。各委員の話聞き、早急な横串作りが肝要と感じる。
- 会長 計画推進は所管課が頑張っているが、横断的・包括的な連携の課題がある。計画推進と別にその検討を進めてほしい。各委員から他に意見があれば聞きたい。
- 委員 目標事業評価調書4ページの取組2「赤ちゃんのチカラプロジェクト」はオンライン実施となり、現在各中学校と打合わせしている。次年度の方針が「充実」なので、少しでも実施出来れば良いと思い取り組んでいる。
- 会長 「赤ちゃんのチカラプロジェクト」は皆で工夫し、取組みを続けてほしい。各委員、他に意見はあるか。
- 委員 地域福祉のため本当は人が集まり繋がる事が大事だが、コロナ禍により集まらない。そこを何らか工夫し出来ることをやっていくため、これを機に色々考える事が重要だと感じる。
- 会長 今夏の体験ボランティアが過去最高の参加者数と聞いた。現在の状況は改めてニーズに向き合い新しい取組みを考える大事な機会となっている。それが住民のニーズに応える力の源になる。他に、各委員から意見はあるか。
- 委員 民生・児童委員協議会に関し、高齢者の対面の訪問が出来ない状態が続いている。前回はチラシを投函し、今回は熱中症の注意喚起のポスティングを実施

した。

会 長 民生委員の活動を市民は知らないと思うので何かの機会に取り上げてほしい。
以上で議題を終了する。

8 その他

(1) 連絡事項

9 閉 会